

建設水道委員会会議録

1. 開催年月日

平成27年 1月28日 開会 9時58分 閉会 11時23分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

簀戸利昭 三輪順治 柳井一徳 惣台己吉
大滝文則 藤原清和

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 宮地俊則

(2) 副議長 上野安是

(3) 事務局職員

事務局長 三宅道雄 事務局次長 岡田光雄

主任 藤井隆史

6. 傍聴者

なし

7. 発言の概要

委員長（簀戸利昭君） それでは、皆さんおはようございます。

ただいまから建設水道委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

〈所管事務調査〉

〈農産物の井原ブランド化について〉

委員長（簀戸利昭君） まず、前回までの協議事項のおさらいをいたします。

農業班が作成した報告書案を説明していただき、内容の修正等につきましては次回の委員会でを行うことと決定いたしました。

それでは、協議に入ります。

まず、第1点目に資料の作成についてです。資料作成に当たっての申し合わせ事項を確認させていただきます。

資料の作成に当たっては、昨年9月9日の委員会で農業班と企業班に分かれてまとめるということになりました。まとめる内容は、事業の実績、現状の把握、制度の整理、近隣市町との比較をするところまでと決定いたしました。実際には最後まで作成しておられ、報告書案になっております。

次に、2点目ですが、報告書の内容についてです。

報告書の内容については、現状の把握、制度の整理、近隣市町との比較以外にも行政視察の内容、農協、生産者団体等から聞き取りもいたしましたので、これらがどのように反映されているかということも考えながら協議をしたいと考えております。

次に、第3点目、報告書を作成した後の報告書の扱い、位置づけについてです。

この報告書が完成した後はホームページ等で公開する可能性もあるかもしれませんが、市民の声を聴く会においての質問、また市民、関係者からの問い合わせ等があった場合には、井原市議会としての回答、もしくは説明する上での参考資料になることが予想されます。ちなみにですが、市民福祉委員会では中間報告書を市内放課後児童クラブへ配付しております。同様に考えますと、農協、生産者団体等へ配付することとなります。当然のことながら、企業班においても市民の声を聴く会で説明をしなければならないということも考えられます。

これらのことを踏まえまして協議を行い、報告書を作成したいと考えておりますので、委員の皆様にはよろしく願いをいたします。

この報告書案につきまして、各委員さんから意見ををお願いします。

修正箇所等がございましたら、ご発言をお願いします。

どなたからでも結構ですから、農業班のほうをまずお願いをいたします。

委員（大滝文則君） それぞれに形はあると思いますが、共通のところで、今日までの経緯と調査の経緯という、2ページ目ですけども、建設水道委員会のほうが委員名を上げるということで、同じように合わせて、ホームページ等で上げるんじゃないかなと思いたほうがいいと思うので、合わせていけるところを比較したほうがええんじゃないかなと思いますので、そのあたりどうでしょうか。

委員（三輪順治君） 今のご指摘はよくわかりましたので、これから次に企業等誘致のことも多分議題に上るとは思いますけれども、統一的な報告書として、スタイル含めて、書体、それからです、であるという口調を含めて、正副委員長において整理をさせていただきたいと思っておりますので、皆さんご異論なければ、そのようにさせていただきたいと思っておりますが、よろしくをお願いします。

委員（藤原清和君） ずうっとこの下次いったことから全部、全てを細かくええようにまとめてあります。井原の農業のことについていろいろ書いてあって。

ブランド化について今後どう取り組んでいくかという、例えばよそなんかの例を見ますと、既にブランド商品をどんどん発表しながらやってるけども、井原市としてはブランド製品をどういうふうにつくり出していくんかというふうなことを、こっちが提議するようなこともあればええんじゃねえかなと思うんで。そこら辺のことについてはどういうふうに取り組むんかなあというふうなことを。

この間いろいろな農業関係者の団体の方との話し合いの場では、いろいろソフトについて今一切考えてないというような格好でしたが。ユズなんかを中心にして、ユズの、例えば生の汁を、よそなんか既に商品名をつけてやってると、薄めながら飲んだりするようなこともありましたということも話しましたが、そういった中で、井原市はこういうものをひとつ研究されたらどんなんな、そのためにはこういうことを取り組みしたほうがええんじやないかとかというようなことが言えるような格好になったほうがええかなあと思よんじやけども。そうしないと、ブランド化を進めるためにどのような格好でブランド商品を決めていくんならということになると思います。

今、冬ぶどうについては、一生懸命冬ぶどうを支援しながら、補助的な金額も出しながらやっておりますけども、なかなかうまいこといかんのんだというような答えも聞きました。そういったことも含めて、将来的にはこういうことを考えていくべきではないかということ、一つには建設水道委員会がいろいろあっちこっち視察に行ったり、いろんな皆様方の話を聞いた上で、最終的にはこういうことの取り組みが中心になっていくべきじやないかということをやりながら、業者と一緒にいけるような体制がとればよいというように思うんです。いろいろな提案して、提議してあげても、どっからどういうふうに取り組むんすということに今度なってくると思うんです。例えば、よそなんかは既に策定委員会なんかを編成して一般市民や学識経験者を集めてきて、そん中でこういった物をこういう条件がなかったらブランド化としては認められないというようなことも全部うとうてありましたけども、そういうことも含めるような体制のものをつくっていくんかどうなんかということも含めて、最終的には出していかにやいけんのかなというふうに思よんじやけども、そこら辺はどがなですか。

委員（大滝文則君） 若干まとめについての話かと思うんですけども、ブランド化というのは基本的に、いろいろ農協、生産者団体とかいろんなこと話をしていく中で共通の話というのは、質が高くないとブランド化にはもうならない。それから、市場なんかの話を聞くと、量がなかったらだめで、それから長期間安定して供給できる、量にかかわってきますけども、体制がないという中で、これからそこへ持っていくのをどういうふうにしたらいいかと

いうことは本当に大事なことなんですけども。ここで、現時点で執行部のほうへ提案というのは、それへ向けての主として支援体制をしてくださいという話を我々は提言するわけで、そこから先は、考え方もいろいろあると思うんですけども、とにかくこういう体制をとったらいよいよということもあるかもしれんけど、それは執行部が考えることであって、今ふるさと創生という事業等々あって、その支援体制とかなんとかという情報も我々よりも執行部のほうがたくさん情報としてあるわけだから、この地域の農業活性化のために、執行部は先頭に立ってやっていかないと。我々が全部そういう並行してから全てのことをしてどうぞというような、行政というのはそういうシステムじゃない思よんです。

だから、支援策をしっかり生産者団体とか生産者にしてくださいということまではええけど、そこから先の制度設計というのは執行部がする話であって、議会として細かいとこまで踏み込むことがどうなのかということもちょっとあって、ここでとめとんです。これはこれから先の議論で進めていきゃいいと思いますけども、そのあたりは執行部の領域まで踏み込んでええかどうかということがあって、ここでとめとるわけです。

委員（藤原清和君） わかりました。

先ほど、委員長長のほうからするとしたらホームページも載せますと、農業団体とかそういったJAさんなんかにもちゃんと報告せにゃいけんということでございますけども、ほんならそこから先をどういうふうに取り組むんかということの道筋というものを、執行部だ、何だそういうとことも関連しながら取り組んでいく場をつくっていかないといけないという。そうしないと、例えば市民の声聴く会に出ていっても、いろいろ質問受けても、さあそこは執行部がするんですから私らはここまでじゃという格好にはならんと思うから、その辺のところの詰めだけは、最終的にはつくったほうがええかなと思うんじゃけど。でないと、中途半端な答えでというふうな格好にならへんかなと思うてみたりするんじゃけど。本気でやっとなんかということとはちゃんと姿勢を示さにゃいけんし、実際にはどこまで持っていけるかということも含めてやっとなんかというふうにするんじゃけどな、わしゃ。実際に本気で農産物つくる、ブランド商品をつくるという取り組みの初段階的なものまで持っていきゃ一番ええんじゃねかなと思うんじゃけども。

委員（三輪順治君） その議論も実は農協にしたんです。しましたが、執行権といいますか、いわゆる私たちには予算も人事も組織を動かす機能も基本的にはない、権限的に。今国においては内閣、政府一体、与・野党ありますけれども、内閣一体となって政府が動きよう。ところが議会というのは、私が要らんこと言うちゃいけません、ある程度の、今大滝委員がおっしゃったように、方向性なり考え方をまとめるということで、その後の具体的な各論は、予算の問題、組織の問題、人の問題、それから連携との問題、いろんな課題が横たわっておりますので、個別具体的にというのは、市民の方は関心が高まって議会に対する答

弁を求められるでしょうけれども、議会の役割はここまでで、私はやはりとめるべきだろうと。各論的にやるんなら特別委員会とか、ほかの手法で調査権限を持ってやるべきであって、所管事務とすれば、各個別ごとの言及はアバウトで、今のブランド化の話でも次の参考資料の中にブランド化のことについては組織化にも触れておりますし、いろんなことに触れておりますので、そこの受けとめとかやり方は、先ほど大滝委員が言われたように、執行部のほうでしっかり踏まえていただいてやっていただければなあという思いがありますが。しかしながら、委員会として出した以上は、この追跡、あるいはその後どうなったかというのは、これは当然視野に入れながら委員会活動は継続していくというふうに私は思っております。

委員（大滝文則君） 来年の3月までに井原市の戦略構想というのを立てにゃいけないということもあると思うんです。そういう中で、これから先、それは決めるあれじゃから執行部が先ほど言ったように、こういうことを見ているんな可能性を探って立てられる思うんです。そこまで踏み込んでいいんかどうかという、今議会としてそこまで踏み込むことなのかどうかということなんですけども、そのあたり、もう少し情報としてまだ整理できとらんの、ここでとめとんですけども、これから議論じゃと思います、それは。3月までまだ時間がありますから。

委員（惣台己吉君） 非常にいいんができたんじゃないかなと思います。

その中で趣旨が違ってもわかりませんが、私は西江原なんで、西江原の公民館の人と館長さんとかいろいろ、2月の頭にはまた会議を持ってもらうんですけど、まちづくり協議会で、今西江原でもこの中でこういうことを調べてますよという中で、1つは耕作放棄地の話から、そんなら今西江原小学校はプランターに綿を植えてると、これを今度、西江原で綿を植えるか、ソバを植えるか、葉草を植えるかとかという、今協議をされようとさりょうてんで、そういう意味で市議会は何かしょんかやという話から、趣旨は違ってもわからんけど、耕作放棄地とか子ども・子育てとかということは調べてますよということだから、ピンポイントにするよりも、今大滝委員とか三輪委員言われたように、これから広げていける、執行部に言うことじゃなしに、これから考えていく、そういう方向性もあってもいいんじゃないかなということで、私はこれ評価したいなと思っております。

以上です。

委員（大滝文則君） 補足しておきます。

基本的にいろんな流れで、最終的に市のほうがさっきの生産者とか生産者団体に、あるとしたら予算的なことでもっと応援してあげたいという最終的な話なんですけども。そのためのことを幾つか列挙しておるんで、そのほかにも加えることが今後出てくると思うんだけど

も。

例えば1番のブドウの話でしたら、1番とか3番のことをブドウで考えると、やはり市場というのは高品質な物を、さっき言ったように安定的な量を確保して、長期間出してくれというのが一番のブランド化になってくるわけで、そのためには一般質問等々でありますけども、常にその量を維持しようと思ったら、後継者、それから地区外からの青野なんかもそうですけど、地区外からの参入者の支援体制もかかわってくるんで、一般質問でもありますけども、そういう研修施設とか、そういう住まいのお世話をお願いしたり、もっとバックアップいただいたりということも当てはまってくるでしょうし、いろんなことがここへは、思惑の中にはあるわけですが、それを具体的にそこまで書くのか、それは執行部が考えることなのかということ、この時点では抑えてということをお願いしたい。

それから、そういう意味で1番、3番、4番のあたりは、そういうことはあるし、例えば先ほど言った工業化の関係でジーンズというもんが、一つの井原市の、これも大きな特産物で、農業じゃないですけども、一つは綿花の方向のバックアップ体制もここへ可能性があるんかなと。それから、先ほど菓草の話が出たときに、その菓草に対する支援体制というのは、その他地場産品に対する支援制度ということであとを濁したということじゃないですけども、そういういろんなことを含んだものとして、今立てとるわけで、これがきちっとした正解の文章とかというじゃなしに、3月までにこれから、先ほど言ったように字句の修正をしながらできるだけホームページ等々、対外的に見てもらっておかしくないことにこれからしていかんやけんという話も受け流していいんじゃないかというふうには思っております。

以上です。

委員長（簀戸利昭君） 先ほどご意見がいろいろ出ましたが、この委員会の報告書案について、再度、修正事項があるかないかということをお聞きいたします。

とりあえず農業班のほうから。

委員（大滝文則君） 先ほど話が出ましたけども、これから3月の最終的な報告書となりましようか、どういうふうな、まとめの段階で、先ほど言ような字句の修正とかという、これから農業班とか企業班と分かれて、それは十分あり得る話なんでしょう。

委員長（簀戸利昭君） それは、まだきょうの時点で報告書が完成するのか否かということですから、できてないということになれば、また協議いただいて、また今度は6人全体で集まってやるかということになるかとは思いますが。

その後の手続については、先ほど皆さんからいろいろご意見が出ましたけども、とりあえず委員会の中の報告ということでご理解をいただけたらと思っております。

委員（大滝文則君） 農業のほうは、もう少し字句とか構成について整理をしたいと、そ

れこそもう少し時間をいただきたいと思います。大まかな流れは、このままですけれども。

委員長（簀戸利昭君） という、大まかな流れはこのままで、字句の整理等々をそろえていきたいというようなお話でよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） ほかにご意見はございませんでしょうか。

〈なし〉

委員長（簀戸利昭君） 字句の整理をまた後日行うということによろしいですか。

〈異議なし〉

〈企業等誘致について〉

委員長（簀戸利昭君） まず、前回までの委員会での協議事項のおさらいですが、内容につきましては農業班と同様でございます。

それでは、協議に入ります。

各委員からご意見等をお聞きする前に、企業班から補足説明がありましたらお願いいたします。

〈なし〉

委員長（簀戸利昭君） ほかの委員さんのご意見をお願いをいたします。

委員（柳井一徳君） すごく丁寧に各市町、近隣市町、それから県、いろんな取り組み状況、比較、そういったことを載せてあって、最終的にまとめという調査結果があるわけなんです。1つだけ思うのが、調査報告結果を読ませていただく中では、四季が丘に対しての調査結果にとどまっている面が余りに出過ぎてるんじゃないかなと思っているんです。オーダーメイド方式をどのように取り組んでいくのかということも調査結果の中に1行、2行ぐらい書いてあるんですが、もう少し、これは詳しくは難しいかもわからないのですが、そういうことにも触れられてたらいかがかなというふうに思ったんですが。

委員（三輪順治君） 私も単位分野で農業班なんだけど、よくまとまって、それも入って

まして、実は11ページ。11ページに研究所や研究機関、データセンター等です。それからあと、オーダーメイドによる取り組みの展開の可能性もあるのではないかと、もうこれで十分だと思います。こんだけ働きかけをやらせたりや、私は個別各論は書かないんで、私は立派によくまとめていただいたと思ってますんで。これはこのままでいいと思います。

字句の修正は、農業班がやるように企業班もさらに字句の修正をやっていただいて、また一緒にお会いしましょう。私は、これで十分だと思います。ありがとうございました。ご苦労さまでした。

委員（柳井一徳君） 私は、もう少しオーダーメイド方式に対して詳しく説明的なものがあるかなということだけです。でも、現状として、それ以上のこと何をどのように書くというのは難しいと思うので、それは理解した上でのことで、別にこれに対して不平不満とかそういうのはありません。

非常にまとまってて、よくわかりやすくなっております。県の支援制度についても詳しく載せてありますし、近隣市町との坪単価がどうであるとかという、そういう比較も文言の中にきちんとなっておりますんで、非常にいい報告書じゃないかなと、調査結果じゃないかなというふうに思っております。

委員（藤原清和君） 違うこと言うてもええ。

きょうの新聞じゃったか、何か見よったら、農地やこうのいろいろな地目を変えるのをそれぞれの地方に任すというようなことがちらっと載っったりしとったけども、農振地域やこう変えるんでも市に任すということじゃろうかな。

委員（三輪順治君） それこれからこれから。

委員（藤原清和君） それがよくわからん。企業誘致のことについて、そういう地域の人らあが農振地域早うしてくれえというようなことが出てきょうるけん。

委員長（簀戸利昭君） 最新の情報ではありましようが、現時点ではまだ出てきてないようなので、ご意見として承っておきます。

副議長（上野安是君） オブザーバーということで。

調査結果をまとめられて、非常によくまとめられてると思います。その後にまた一番最後のページで終わりにというのがあるんですけど、これを書かれてる意図的なものがありますでしょうか。どうも重複というか、もあるし、最後の2行が終わりにしては、逆に弱くしてしまったというか、せつかくここまでまとめられとるのに、簡単に誘致する必要があると思いますで終わってしまったので、この終わりにという文章というか、これは調査結果じゃけ全部載っかってることだろうと思うし、仮に足らなければ調査結果のほうに載つけて、この終わりにというのは取ってもどうなのかなという、済みません意見を。

委員長（簀戸利昭君） 終わりにの最後の2行あたりでかなり簡単にというお話がござい

ましたが、何かご意見がございますか。

委員（藤原清和君） これと後を含めてもう一度やるということで、さっき意見、副議長が出されたようにやっていきたいと思います。

委員長（簗戸利昭君） それでは、次回にそういうことも含めて検討するということがよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簗戸利昭君） ほかにご意見はございませんでしょうか。

〈なし〉

委員長（簗戸利昭君） 次に、次回の委員会での協議内容等、スケジュールということになろうかと思いますが。

2月10日の10時から建設水道委員会ということでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簗戸利昭君） それでは、日程は2月10日の火曜日10時から建設水道委員会を行いたいと思います。

それまでにできれば、修正点等があれば早目にご提出いただいて、2月6日午前中までにメールなり文章で事務局へ持ってきていただくということでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

〈その他〉

〈なし〉

〈副議長あいさつ〉

委員長（簗戸利昭君） 以上で建設水道委員会を閉会いたします。